2025 年度　第 7 回 理事会　議事録　2025.12.12

日時：2025 年 12 月 12 日（金）19：00～21：05
開催方式：対面開催
場所：神奈川県横浜市中区真砂町 3-33　商業ビル「セルテ」8 階　801 会議室
出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、奥原孝幸（副会長）、遠藤陵晃（副会長）望月強併（事務局長）、玖島弘規、野本義則、澤口勇、青木啓一郎、佐々木秀一、神田崇央、神保洋平、佐藤隼、佐藤範明、山勢健太朗、村仲隼一郎、佐伯まどか、石川恵美子
出席監事：錠内広之
欠席監事：野々垣睦美
オブザーバー：廣瀬選挙管理委員長、中西学会長(第 20 回県学会)、小砂大会長(第 7 回臨床大会)、木下学会長(第 21 回県学会)

Ⅰ．神保会長より挨拶

今年は組織改編、行政訪問など多く動いた年でした。県士会としても前に進んでいると思います。
本日は県学会、臨床大会長に出席頂き、ご報告頂きます。本日もよろしくお願い致します。

Ⅱ．報告事項（各部署・理事・三役）

1．第 7 回神奈川県臨床作業療法大会　経過報告について（小砂大会長）
テーマ：「ニッチは、やがてプロフェッショナルへ」
会期：2026 年 12 月 6 日(日)　10:00～16:00
会場：神奈川県立保健福祉大学
プログラム：市民公開講座、教育講演、学術発表、症例検討
現在、実行委員を中心に市民公開講座や講演内容を検討中。実行委員についても増員予定。

2．代議員選挙　経過報告について（廣瀬選挙管理委員長）
12 月 1 日立候補届受付開始、12 月 28 日受付終了。1 月 6 日集計結果を理事会へ報告。
定員未満の場合、1 月 10 日推薦承諾書の受付開始、2 月 13 日推薦承諾書の受付締め切り。
滞りなく運営できるよう進めていく。各部署ご協力をお願いしたい。

3．リハビリテーションを考える議員連盟の総会報告について（神田理事）
主に以下の内容について提案がなされた。
①物価高に対応し、他産業に匹敵する持続的な 3 療法士の賃上げ
②20 年間変わらない診療報酬における基本報酬体系の見直し
　療法士の自律性（生涯学習）を診療の質への反映よび診療報酬へ価格転嫁
③訪問サービス提供体制の再構築と基盤強化
④すべての人の健康と疾病予防等に資する 3 療法士の活用（資格法の改正等）
⑤厚生労働省におけるリハビリテーション課の設置及び「今後のリハビリテーション専門職の在り方検討会（仮称)」の設置
賃上げについては例年通り提案がなされており、今回はその中でも特定の資格(認定作業療法士等)の算定要件化

や厚生労働省におけるリハビリテーション課設置について提案がなされていた。

4. WEB サイトリニューアルに伴う業者選定について（野本理事）
現在、3 社に情報収集を行っている。業者の選定については年明けにコンペができるように進めていく。
業者の決定、サイトの内容については今後、三役や関連部署と協力し理事会に提案していく。

Ⅲ. 審議事項
1. 後援依頼（事務局）
・福祉体験ワールド 2026
→賛成多数で承認
2. 部員承認（事務局）
→賛成多数で承認

【その他報告部署・理事】
Ⅳ. トピックス
1. 2026 年度事業計画・予算案について
①事務局
例年通りの事業を継続。新規事業としては会員管理システムの導入、会員班の創設を行う。会員班については現在の WG の活動を継続する。事業内容については関連部署と協力しながら進めていく。
②財務部
例年通りの事業を継続。新規事業として資金調達・助成金管理機能の整備を検討している。県士会事業で助成金を申請できないかなどを検討していく。会計業務の負担についてはシステム面、作業面、人的面を含めて課題を精査し対応方法を検討する。
③福利部
会員同士が繋がれる事業を提案。新入会員オリエンテーションについては単発ではなく、オンラインなどで複数回開催し、参加者を増やしていけると良い。OT 協会から倫理班の設置を依頼されているため設置に向けて進める。その他については例年通りの事業を継続する。
④規約部
例年通りの事業を継続。
⑤学術部
例年通りスキルアップ研修、研究助成金事業、学術誌発行を軸に事業を継続。2025 年度は研修会のアーカイブ配信を実施し、研修会後の視聴も一定数見られ有効な手段であると考える。研究倫理審査委員会設置事業も進めていく。
学会支援課については第 7 回臨床大会、第 21 回県学会の運営サポート、運営マニュアルの更新と内規の整備を行っていく。
⑥教育部
例年通りの事業を継続。生涯学習制度の広報・啓発・推進を行い、登録 OT や認定 OT の認知度、取得へ向けた活動を行っていく。臨床実習指導者講習会の対面開催についてはオンライン開催を残しつつ、状況を見ながら検討を進める。
MTDLP 推進課については、例年の事業を継続し新規事業として MTDLP つながるケア推進事業を提案している。MTDLP 指導者を地域や教育の場に派遣し、作業療法の考えを普及できるよう準備をしていく。次年度においては準備年になると思われる。

⑦広報部

例年通りの事業を継続。大きな点としてはWEBサイトリニューアルを提案している。業者を選定し、どのようなサイトにするかなど詳細については今後検討していく。県士会ニュースのオンライン化については紙面、オンラインのメリット、デメリットを考え、判断をしていきたい。

⑧制度対策部

例年通りの事業を継続。福祉用具については学術部とも引き続き合同研修を進めていきたい。

⑨地域社会振興部

地域事業課は人材育成に注力して事業を展開していく。横浜市地域リハビリテーション活動支援事業を基盤として人材育成の場としても活用し、次世代を担える人材を育成していく。

地域リハ課はこども班や難病班などそれぞれの専門的な研修会開催や情報配信を行っていく。

⑩エリア化

地域活動助成金事業は副会長、前任理事、現理事の三者で協議していく。1月の理事会で提案予定。

エリア化については県士会としてエリア化するのか否かの判断が必要。県内8エリアを設定し、エリア担当理事やエリア長、市町村窓口担当、エリアミーティング担当の配置を検討している。

県士会がエリア化する目的、目指すものを共有する必要がある。

＜意見交換＞

・Confitの継続利用について

学会支援課内でConfitの継続利用や実行委員の謝金、参加費などの素案を検討していく。

学会支援課、学術部で検討した上でメール等で理事に共有する。

→今回の事業計画・予算案をもとに副会長が取りまとめ役として内容の精査を行う。まずは関連部署で会議の場を設けて頂く。会議後、議事録を共有。

2. 第20回神奈川県作業療法学会　終了報告について（中西学会長）

資料を供覧し報告。

本学会では、県民公開講座を学会前夜祭として開催。県民、多職種含め86名の参加があった。

学会当日と分けて開催することで、一般の方と学会参加の方の棲み分けが明確で運営がしやすかった。

演題採択については、J―stage、医中誌への掲載を行うにあたり内容の質的担保のため、修正が必要な場合は修正後採択として助言を行った。

今後の反省点と課題については「実行委員、座長の参加費の扱い」、「託児所の在り方」、「助成金申請」、「宣伝活動」、「学会予算」が挙げられる。全体として参加者数がコロナ前と比較すると少ない状況である。学会に興味を持ってもらう取り組み、広報活動を検討する必要があると思われる。

全体を通して満足度の高い学会を開催することができた。

3. 第21回神奈川県作業療法学会　経過報告について（木下学会長）

昨今、若手OTの学会参加が少ない状況である。本学会においては若手OTが興味を持つ内容や企画を検討していく予定。これから実行委員を集めていき、学会の企画、予算等を検討する。

Ⅴ．錠内監事より

今年1年間お疲れ様でした。理事会で積極的な議論がなされていることはいいことだと思います。一方で会員との温度差も感じながら県士会運営をしていかなければなりません。代議員の立候補においても少ない職場から立候補してもらえるような取り組みを進めて頂きたい。理事が中心となり取り組んでください。

以上

文責：玖島弘規

議事録署名人	議長：	神保	武則	印
	理事：	奥原	孝幸	印
	理事：	山勢	健太朗	印
	理事：	石川	恵美子	印
	監事：	錠内	広之	印